

PHILIPS

Healthcare

日本心エコー図学会第34回学術集会 ランチョンセミナー 1 (LS1)

日時：2023年4月21日（金）12:00～12:50

会場：第1会場長良川国際会議場 1F メインホール

〒502-0817 岐阜市長良福光2695-2

SHDを支えるPhilipsの技術 ～基礎から応用まで～

講演1. 今更聞けないSHDエコーの基礎

座長：出雲 昌樹先生（聖マリアンナ医科大学 循環器内科）

演者：宗久 佳子先生（仙台厚生病院 循環器内科）

講演2. 必ず来るFusionの未来

座長：宗久 佳子先生（仙台厚生病院 循環器内科）

演者：出雲 昌樹先生（聖マリアンナ医科大学 循環器内科）

共催セミナー（ランチョン）はチケット制です。

配布場所：長良川国際会議場 1F エントランスホール

配布時間：2023年4月21日（金）8:00～11:30

※有効期限はセミナー開始時刻までセミナー開始後に無効になります。



共催：日本心エコー図学会第34回学術集会
株式会社フィリップス・ジャパン

講演1. 今更聞けないSHDエコーの基礎

演者：宗久佳子先生（仙台厚生病院 循環器内科）



かつては弁膜症の心不全患者の心エコー検査では、主に経胸壁心エコー（TTE）で血行動態を観察し、外科術前に弁の形態を経食道心エコー（TEE）で観察していた。解剖学的観察は主にTEEで行うというのが常識であった。しかし、構造的な心疾患（SHD）に対するカテーテル治療が広がり、TEEのみならずTTEのあり方も変化してきている。とりわけ僧帽弁閉鎖不全症（MR）に対するカテーテル治療では、治療の可否は解剖学的形態によるところが大きい。MRのetiologyはさることながら、僧帽弁口面積や弁尖長、中隔穿刺高や副病変の有無、コードフリーゾーンなど、確認すべき項目は多数存在する。しかしこれらの情報をTEEでのみ確認しては、患者への治療選択肢の提供が遅くなってしまふ。また、多くの場合TEEは1度きりの検査であり、患者の負担を考えると十分な時間をかけられない場合が多い。見逃しなく1度のTEEで情報をとりきるには、TTEでの事前の観察は重要である。

SHD治療施設の拡大とともに、SHD治療に関わる心エコーは一部の医師のTEEによるものだけではなく、術前・術後のTTEにも重きが置かれるようになってきた。今後、治療を受ける患者数はさらに増加し、実施施設のみならず紹介元、術後の通院先でも多くの患者に触れる機会が増えるだろう。外科術後とは異なる血行動態を示し、残されたTRへのフォローも重視される。フィリップスEPIQ CVxを使用し、治療開始から現在まで約380例の患者の術前・術後のTTEを施行し続けた中で気づいたことや、TTE 3Dの活用なども含めて情報を共有したい。

講演2. 必ず来るFusionの未来

演者：出雲昌樹先生（聖マリアンナ医科大学 循環器内科）



数年前、学会で初めてFusionを拝見した。それはPhilips社製の経食道心エコー（TEE）と透視とのFusion、EchoNavigatorだった。これはStructural Heart Interventionに必ず役立つ！と思い、海外留学をしている先生など様々な人にその評判を聞くとよい回答が得られない。自分がお聞きした誰もがFusionに明るい未来を感じていなかった。2023年1月、聖マリアンナ医科大学病院の新病院がオープンし、ハイブリッド手術室にはFusionが装備された。いよいよ自分でEchoNavigatorを使用した時の衝撃！これは必ず明るい未来が待っている、そう思わずにはいられなかった。Structural Heart Diseaseに対するカテーテル治療が普及した。直接組織を見ることができないカテーテル治療では画像診断の重要性が高いことは言うまでもない。それは術前に限ったことではなく、カテーテル術中にも様々な技術を駆使して正確かつ迅速に、また安全に治療を患者に届ける必要がある。本セッションではStructural Heart InterventionにおけるEchoNavigatorの経験を提示し、Fusionの今後の展望と課題についてを皆様とともに考えていきたい。